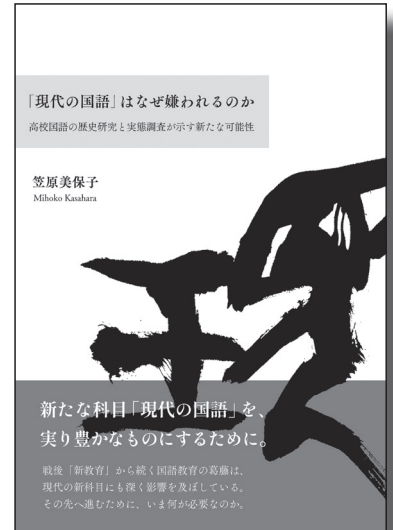


# 「現代の国語」はなぜ嫌われるのか

高校国語の歴史研究と実態調査が示す新たな可能性

笠原美保子 = 著 本体 1,800 円 + 税 A5 判並製 184 頁  
 (横浜翠嵐高等学校教諭) ISBN978-4-9912091-2-3 C0037

「小説禁止」の了解を守らず、「羅生門」を掲載した教科書が検定を通過、採択率トップとなった高校新科目「現代の国語」。その混乱の原因と背景を明らかにし、国語教育の未来を探る。



## 掟破りの教科書が合格した理由が明らかに

教科書の採択をめぐる混乱が新聞や週刊誌でも大きく取り上げられ、早くもその指導方針に疑念が呈されつつある、高等学校の新科目「現代の国語」。その成立過程の検証から見えてくる、「文学作品の入る余地なし」の本当の意味と、今回の騒動の原因とは。

## 戦後から続く「文学」切り離し失敗の歴史

国語教育から文学を切り離す方針が嫌われる状況は、いまに始まったことではない。いずれも頓挫した、戦後「新教育」や過去の類似科目の調査をもとに、学校教育の現場が「現代の国語」と同様の指導方針を受け入れてこなかった実情を解説。その背景を分析する。

## 実り豊かな国語教育のために

本書は、「現代の国語」成立事情や、過去の国語政策の課題を整理しながら、戦後以来の国語教育が抱える葛藤を乗り越える解決策を、授業実施案も含め提示する。長年にわたり高校国語の授業実践と研究に携わってきた著者による、価値ある言語教育の実現を目指す一冊。

著者 笠原美保子 (かさらは みほこ)

神奈川県立横浜翠嵐高等学校国語科教諭。高等学校国語科における「話すこと・聞くこと」の指導について全国的調査研究を行い、これまでに横浜国立大学教育人間科学部非常勤講師、NHK エデュケーショナル「ロンリのちから」番組委員等を務めた。主な著作に『認識力を育てる「書き換え学習」』（東洋館出版社、共著）、『もう一度読みたい日本の古典文学』（勉誠社、共著）など。

小社刊行物は**直接取引**でお届けいたします。物流と決済は、低正味・スピード納品で定評のある**トランスビュー**が代行するので、**新規手続きは不要**です。配本はございません。1冊からお気軽にお申し付けください。(返品随時可 / 送料元払 / 取次ルートは完全買切)

直取引代行  
トランスビュー

学而図書の商品は、トランスビューの取扱で納品いたします。直接取引の条件は、トランスビューの商品とすべて同じです(随時返品可)。取次ルートの場合は、買切・返品不可となります。トランスビューとのお取引がないお店からのご注文は、小社からご連絡いたします。

貴店名

ご担当

「現代の国語」は  
なぜ嫌われるのか

冊